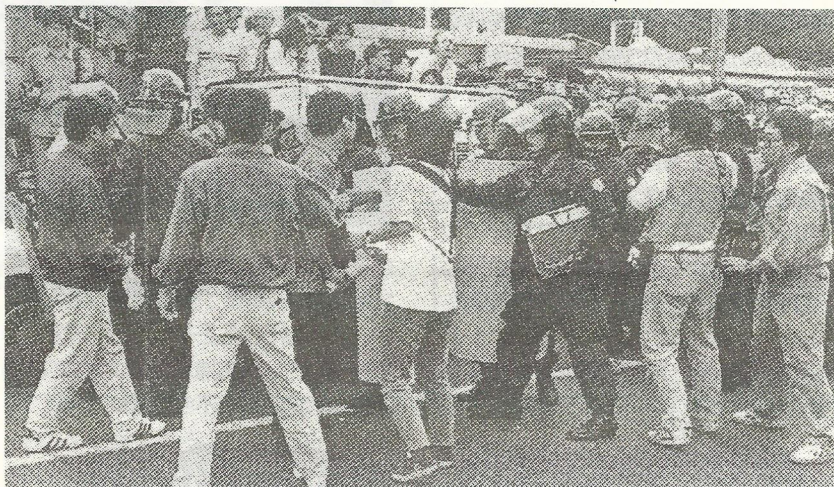
No. 5
1993
12.15

A.R.P 通信 200円
発行 〒606 京都市左京郵便局
私書箱57号 ARP
FAX:075-781-1253
郵便振替口座 大阪2-252923 ARP
定期購読料 2500円(10号分)

代々木公園奪還！排外主義粉砕！

原宿

「植栽整備工事終了」にともない8月、フェンスのとりはずされた代々木公園であったが、「ロックンローラーとの集団乱闘、混乱」などを理由に、警視庁の要請をうけた東京都は公園を再び封鎖した。その一方ではイラン人をはじめとする「不法滞留外国人」への摘発、強制送還攻撃はいっそう強化され、これに抗議する者に対しては、機動隊まで投入しての弾圧がはかられている。

これら排外主義攻撃を断じて許してはならない。 外国人排斥の嵐を打ち砕き、国境を越えた連帯を勝ちとろう！ 12・26代々木公園奪還！排外主義粉砕大行動に結集を！

とりもどせ代々木公園
外国人排斥反対大行動へ！

12.26

うりゃ うりゃ りゃあー

WE SHALL WIN BACK THE PARK!

SMASH FASCISM!
FIGHT THE POWER!

原宿 ★★★★★★★★ 代々木公園再封鎖許すな！

不当逮捕・ガサ弾圧・送還攻撃弾劾！

代々木公園閉鎖、外国人締め出し排外攻撃に対する取り組み、闘いは前回お伝えしたが、7・11闘争以後をめぐる状況を前号に引き続いて報告する。

さる7月11日、「原宿・渋谷　生命と権利をかちとる会（通称いのけん）」などからなるバトリ実行委によって呼びかけられた外国人排斥反対デモは、イラン人ら外国人との大合流を勝ちとり排外主義攻撃粉砕の決意があらためて確認されたが、この闘いにメンツを潰された警視庁は以降、まさに8月反動として「違法滞在外国人」摘発・送還攻撃、支援運動弾圧を強化してきた。「植栽工事終了」に伴い、7月30日付けでフェンスの取り払われた代々木公園は、「ロックンローラーとの集団乱闘、現場一帯の混乱」などを理由に、警視庁の要請を受けた東京都によって再封鎖された。

警視庁は、ついに機動隊を公然登場させ
「違法滞在者」への摘発・収容・送還攻撃を加えてきた。（8月）

ローラーと乱闘 そこへ機動隊

8月1日（日）午後、イラン人を取り囲んで連行しようとしていた私服警官らと、これに抗議するいのけんメンバーらによる逮捕阻止行動に他のイラン人も加わって実力奪還がなされた。この後、原宿神宮橋付近で外国人排斥反対のアピールをおこなっていたいのけんと、外国人労働者に対し、歩行者天国付近で踊っていたロックンローラー（ローラー）ら約20人が「イラン人はイランに帰れ！」などと殴りかかるなどして乱闘となった。警察は機動隊をもってこれに介入し、暴行を加えてきたローラー側ではなく、いのけんメンバー1名と、これに抗議する同メンバー1名、計2名を「公務執行妨害罪」でデッチ上げ逮捕したのだ。（結局2人は10日間の不当勾留）

連続不当ガサ そして公園再封鎖

この逮捕をもって警視庁は、いのけんが他団体と共用している共同スペースやいのけんメンバー宅、さらにはその友人宅など合計4カ所に不当な家宅捜索（ガサ）を連続的におこなった。その際、共同スペースにいあわせたイラン人男性を私服警官十数人が取り囲み「旅券不携帯」を理由に拘束している。（彼は翌日、東京入管に移送、強制送還に。）大量の警官動員や夜間捜索許可状など準備していることなどから、このガサ攻撃はガサのみならず「外国人摘発」をも目的としていたことは明らかである。

翌週日曜の8日には原宿で緊急抗議集会が持たれたものの、圧倒的逮捕体制で臨む警視庁によってイラン人ら外国人32人が「変造テレホンカ

12・26行動の詳細等、お問い合わせはＡＲＰで受けつけています。

★12・16一日行動　12時30分渋谷・宮下公園集合　1時デモ出発　原宿へ！！

★午後6時より集会　於・代々木八幡区民会館

★渋谷・原宿越冬まつり　12月31日午後4時〜1月1日朝まで　渋谷・宮下公園にて

ード販売」や「入管法違反」などで逮捕、収容された。警視庁の要請を受けた東京都はローラーとの「集団乱闘」「現場の混乱」を口実に10日（火）、公園を再封鎖した。「集団乱闘」を誘い、「混乱」をつくりだしたのは一体誰なのか。この「事件」でいちばん得をしたのが警視庁である事実を見ると、それは自ずと明らかとなろう。

変造テレカキャンペーンで世論誘導

警視庁、入管は外国人摘発、逮捕攻撃を正当化せんがため、マスコミを通じ「不良外人変造テレカ売買」など、排外主義キャンペーンを煽っている。いまや「イラン人＝変造テレカ＝不良外人」の構図ができあがってる。一部のイラン人ら外国人が変造テレカを販売しているのは事実ではあろう。だか彼らはわざわざイランから日本にテレカ変造にやってきたのだろうか。不況下で何の補償もなく職を失った彼らがしかたなく追い詰められて、ヤクザに利用されテレカを売らされているのである。変造テレカを「生きるため」にやむなく売っている彼らだけが取り締まられ、なぜＮＴＴ株上場問題で大もうけしたＮＴＴ関係者、政治家が取り締まられずに放置されているのか。

我々は何よりもまず、警察が変造テレカを口実として「違法滞在者」摘発をおこない、キャンペーンに利用していることを見なければならなず、「外国人問題」を「変造テレカ問題の是非」の議論に解消させることは「違法／合法」の「分断」として「敵の論理」にからめとられる危険性があることを認識しておかねばなるまい。

機動隊が武装登場　戒厳摘発攻撃

つづく９月26日には入管、警視庁公安部は完全武装した機動隊、カマボコ配置で原宿に登場し、「不法残留外国人取り締まり」の狩り込み攻撃を暴力的におこなった。イラン人ら20人が逮捕され、67人が入管法違反等で東京入管に収容された。現場でこれに抗議し、「逮捕被疑事実、摘発根拠を明らかにせよ！」と要求する市民、外国人、いのけんメンバーらに対しては、機動隊が武装配置され、抗議圧殺がはかられた。これら一連の不当弾圧、排外主義攻撃に対しては、断固として怒りの声をあげ、闘っていかねばならない。

「『イラン人はイランに帰れ』『不良外人を捕まえろ』…これらの言葉はほんの半世紀前、中国や朝鮮などアジアの人々に対して吐かれたそれと同じではないか。そうして警察が人々を次々と監獄に放り込んでいく。閉ざされた社会はそこに生きるすべての者たちを窒息させるのです。」

――― いのけん８・７ビラより

12.26 実力「御用納め」で官庁を葬れ！

７・11につづき12月26日（日）、原宿において「外国人排斥反対大行動」が予定されている。東京都、警視庁など権力官庁に対しては、実力をもって「御用納め」を永遠的に強制し、権力機構を葬り去ろう。圧倒的結集をもって、排外主義を打ち砕き、さらなる連帯を構築しよう。★

◆キューバ　反権力活動家に弾圧

キューバの反権力、エコロジー運動グループ、センデロ・ベルデ（＝緑の道）メンバー２人は、アメリカ訪問後「アナキストグループとの関係」を理由にキューバ政府から入国を拒否されている。

これに対しアメリカのアナキストやリバタリアグループは抗議行動を各地で展開しているが、キューバ政府は今もって２人がキューバに戻ることを認めていない。

◆ファシストの恫喝攻撃許すな！

２月下旬、スペイン南東部のカスティリョンで活動するリバタリアンら運営による印刷所に対しファシストから脅迫状が送りつけられた。メモにはカギ十字のマークが書かれ、「お前たちの身になにが起こっても知らないぞ」などと記されていた。同印刷所を運営するメンバーらは「ファシストの攻撃には断固として闘う」とするメッセージを発表。

◆Ｃ18による連続放火攻撃弾劾！

６月４日、イギリス・ロンドンのアナキスト紙フリーダムの印刷、編集事務所がファシストによる放火攻撃をうけた。幸いボヤ程度ですみ、多くの仲間から復旧カンパが寄せられた。犯行声明は出されていないが、今年に入って反ファシズムを掲げる社会団体、組織の事務所や施設に対して同様の手口でファシスト武闘グループ「コンバット18（Ｃ18）」が連続放火をおこなっていることから、今回の犯行も同グループによるものと思われる。

また翌々月にはブリクストンのアナキスト共同活動スペースとなっている 121ショップにも同様の攻撃が加えられた。地元アナキストらは戦闘警戒体制をとり、防衛にあたっている。

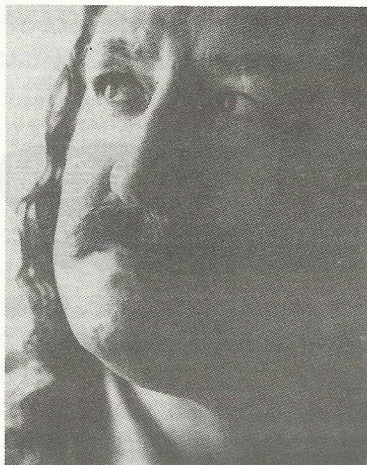
母なる大地を取り戻す戦いは続く

我々はレオナード・ペルティアの釈放を要求する

アメリカ政府によるインディアンに対する侵略行為は、現在も連綿として続けられている。フロンティアの終わりとともに、先住民族に対する抑圧はその形をより巧妙化しつつ遂行されているのだ。

生きていくための恵みを何ももたらしはしない荒野の居留地に閉じ込められた彼らは、資本主義のもと労働力として都市への流入を余儀なくされた。それは文字通り民族の解体を推進する以外の何物でもなかった。さらに、わずかばかりの居留地に鉱物資源が発見されると、その居留地からさえも追い出される策動が続けられている。国家と資本主義は、大地とともに生きる民族を消滅させようとしているのだ。

これに対するインディアンの戦いは現在に至るまで力強く続けられている。民族の文化、言語、習慣を守り育てて次の世代に伝えていくことは、闘いの基礎を形作る。そして、戦士たちは武器をとり闘うのである。もちろん、性別、年齢は関係なく不当な国家の抑圧には立ち向かっていく。そうした闘いを先頭で担うものとして、アメリカン・インディアン・ムーブメント（ＡＩＭ）がある。本紙２号のコロンブス・デーに対する闘いにもＡＩＭの闘いがでている。アメリカのラジカルな闘いの中心にＡＩＭの闘いは位置しているのだ。

レオナード・ペルティアは、そのＡＩＭの活動家である。そして、彼は、その活動ゆえにデッチ上げられ獄中にある。

デッチ上げの経過

1975年６月25日、２人のＦＢＩ捜査官が、カウボーイ・ブーツの窃盗事件を口実にサウス・ダコタ州のパインリッジ居留地に侵入した。この行為は、当然のごとく住民の反発を受けた。そして、何百人もの準正規軍装備をしたＦＢＩ捜査官、保安官との銃撃戦にまで発展するのであった。この過程で、双方に死者が出た。もちろん、ＦＢＩはインディアンの死者については、まともな対応をせず、居留地を荒らしまわった。

当時、アメリカでは「コインテルプロ計画」という抵抗運動抹殺計画が推進されていた。とりわけ、ＡＩＭやブラック・パンサーの活動家は「非合法」に抹殺されたり、デッチ上げで逮捕され長期投獄されるという状況であった。（もちろん現状は今も変わっていないが）危険を感じたペルティアはカナダに逃れていたところを不当逮捕され、起訴されたわけである。

ＦＢＩ側は目撃者への圧力、偽証、証拠の隠滅を駆使し、裁判所は彼に終身刑を言い渡した。続く上告審においては、そうしたＦＢＩ側の実態が次々と明らかにされていったのだが、結局再審は却下されてしまった。

そしてレオナード・ペルティアは、今にいたるまで17年間獄中に捕らわれているのである。

今こそ支援を！

アメリカ全土で組織されている救援委員会は、今年こそ彼の釈放を勝ち取る年にしようと、精力的な活動を続けている。我々もこれに呼応して、現在、釈放を要求する署名運動を展開している。本紙に署名用紙をつけているので、ぜひ協力してほしい。

またアメリカの救援委員会では、11月21日から12月24日まで、クリントン大統領へ抗議ハガキやＦＡＸを送ることを呼びかけている。

文面は、以下の通り。

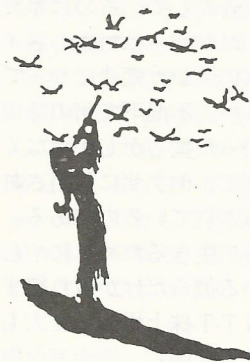
『I demand and support the request of Leonard Peltier be granted executive clemency and immediately released from prison』

送り先

President Bill Clinton
The White House
1600 Pennsylvania Ave
Washington, DC 20500, U.S.A.

FREE

OMORI

道庁爆破デッチ上げ裁判上告審支援の闘いを！

道庁爆破事件とは

1976年３月２日、アイヌ・モシリ侵略の中枢機関である、北海道庁が爆破された。日本国家は、現在、北海道と呼ばれるアイヌの人々の大地、すなわちアイヌ・モシリを侵略し続け、最終的には併合した。百年ちょっと前のことである。もともと北海道は、「日本の領土」ではなかった。それを力ずくで奪ったわけである。

北海道開拓と称して、アイヌの土地を取り上げ、言語や文化を破壊し民族そのものを抹殺しようとする政府と開拓者たち。そうしたアイヌ・モシリ破壊の推進機関が北海道庁なのだ。

世界中のどこを見たって、侵略に対する抵抗は正当な行為であり、侵略の中枢機関が攻撃されるのは当然ありうることなのだ。日本は侵略によって出来た国なのであり、その中で民族解放闘争が行われるのは当たり前だ。アイヌ・モシリ侵略の機関である道庁の爆破は、そういった意味において正当な闘いであった。

許せないデッチ上げ

連続的に侵略企業を爆破していた東アジア反日武装戦線のメンバーを逮捕して安堵したのも束の間、道警爆破、大阪三井物産爆破と闘いが続くなかで、道庁の爆破が起こったのである。北海道警察は自分のところを爆破されたうえに、つづいてすぐ近くの道庁まで爆破されたわけであり、面目丸潰れとなってしまった。

そして彼らは、反日の闘いを指向していた大森勝久さんに目をつけたわけである。執拗な尾行などに危険を感じた大森さんは、北海道を離れる直前に令状もないのに逮捕された。

証拠とされたものは、豆電球や乾電池（懐中電灯についたままの）など誰でもがもっていて不思議ではないものばかりであった。そして、爆弾の材料である除草剤等が発見されなかったのは、すでに使ってしまったからなどとされたのである。このような強引なデッチ上げで大森さんは犯人とされたのだ。

裁判所も、大森さんが「反日亡国」の闘いを指向していることをもって、検察以上のデッチ上げを自ら行い、死刑判決を出した。控訴審でもこの結果は同じであった。

上告審闘争の勝利を！

最高裁判所は、上告審の口頭弁論期日を来年６月６日に指定してきた。

この裁判を一貫して支えてきた支援グループ「森を守る会」は、補充書の提出等ねばり強い闘いを続けてきたが、とうとう期日指定がなされたわけである。通常、口頭弁論が行われると実質的に審議は終わり、判決にまで突き進むこととなる。

不当な判決をくつがえすために、様々な努力がなされてきたわけであるが、最高裁はそれらを踏みにじり今回の決定を出した。口頭弁論には、「被告」である大森さんは出廷出来ない。何ら自分の想いをぶつけることも許されないのだ。このような不当な裁判を決して許してはならない。

「森を守る会」では、上告審闘争の勝利に向けた大衆的な闘いのうねりを作り出すために、６月６日の口頭弁論をひっくり返すという想いで、さる９月９日に集会を開いた。この中で、最高裁に圧力をかけて無罪獲得を勝ち取るため、要望書を作って多くの署名を集めることが提起された。この要望書の内容は以下のとおりである。

一、死刑判決を破棄し、即時、無罪の決定を出せ

一、口頭弁論期日を十分にとり、審理をつくせ

一、大森勝久さんを口頭弁論期日に出廷させ、陳述の機会を与えよ

多くの仲間たちがこの署名運動に協力し、死刑判決をくつがえす闘いをともに担ってほしい。

また来年６月６日の口頭弁論の日には、最高裁へ総結集し、怒りの声を叩きつけていこうではないか。

６月６日、最高裁に死の旗『黒旗』を打ち立てよう！

この裁判の詳細について分かり易く説明するパンフレット「やってない俺を目撃できるか」があります。このパンフレットの申し込み、また裁判についての詳細は、

東京都上野郵便局私書箱 143号
森を守る会　まで

ＡＲＰでも取り扱っています。

定期購読料値上げのお知らせ

郵政省は、来年からの郵便料金の値上げを決定しました。封書が62円から80円へと大幅な値上げです。値上げに抗議する意志は堅いのですが、しかし。というわけで、来年から本紙の定期購読料を10号分3000円とさせていただきます。ごめんなさい。郵政省へ抗議の声を！

天皇訪欧抗議行動炸裂！

ドイツ・アウトノーメ、アナキスト、ANTIFA　〈ベルリン〉

天皇アキヒト、皇后ミチコは９月３日から19日にかけての17日間、ベルギー、イタリア、ドイツなどをヨーロッパ諸国を「巡行」した。羽田空港では多くの市民団体の抗議をうけつつ飛びたったが、ヨーロッパにおいて天皇に対して抗議闘争が取り組まれたことは伝えられていない。

アキヒト、ミチコがドイツ・ベルリンを訪問した９月15日、これに抗議する天皇訪独糾弾行動が闘われ、「テンノー、カエレ！」のシュプレヒコールが響きわたった。

日独による侵略史を告発！

この抗議闘争は、アウトノーメや反ファシズムＡＮＴＩＦＡ運動グループ、アナキストなどによって数日前から準備され、アジア人2000万人虐殺、侵略で血ぬられた皇室と、その過去に居直る日本国家を糾弾する呼びかけ文が作成され、ベルリン・アウトノーメ情報誌インテリムに掲載された。

ベルリンでは、おりから３日間にわたって従軍慰安婦問題で国際会議がおこなわれており、多くのドイツ在住日本人、韓国・朝鮮人らが参加し、日本の戦争責任と「戦後」が告発されていた。この国際会議はマスコミなどで大きく報じられていたこともあり、天皇訪独抗議闘争にも多くの市民の関心が当初から寄せられていた。ベルリン市、警察当局はこの闘いを封殺せんとし、機動隊を部隊配置、天皇訪問予定地となったフンボルト大学や周辺のウンター・デン・リンデン付近は警備車両で埋めつくされた。

「テンノー、カエレ！」のシュプレヒコール

行動の呼びかけに応えて、当日はアウトノーメ、ＡＮＴＩＦＡグループ、アナキストのみならずドイツに暮らす韓国・朝鮮人、中国人ら多数が結集した。午後６時半ごろ、天皇アキヒトは、ベルリン市警察当局の防衛のもと、ベルリン市官僚や日本人送迎団らの歓迎をうけながらフンボルト大学に到着した。そこへ「アキヒト訪独糾弾！侵略史の欺瞞的清算を許さない！」と日本語の横断幕がひろげられた。皇室のシンボルである菊マークをこぶしでブッ潰している絵も大描きされており、「テンノー、カエレ！」と日本語シュプレヒコールも響きわたった。

ドイツと同じ「敗戦国」日本、その戦後とってきた立場や現在の「外国人排斥問題」とファシズム台頭の中にあって、日独両国家の言う「友好」とは、ファシズム同盟の再来であることが訴えられ、再び侵略に向けて突き進む両国家に対する怒りのシュプレヒコールはアキヒト、ミチコだけでなく天皇を出迎えた日本大使館職員、駐ドイツ企業財界関係者らにも激しく叩きつけられた。

闘いを抹殺したマスコミ

日本からは多くの記者団が同行取材していたにもかかわらず、この闘いを報じた報道機関はほとんどない。

別の訪問地イタリアでは天皇警備の影響でローマ市内の交通はマヒし、市民の生活に影響がでるなどもしている。「美智子皇后、ピアノ飛び入り演奏」などとタレ流された「美しい」話題のかげに、事実は覆いかくされ、そして世論は誘導されていく。

国境を越えた闘いを通じて、これらの状況に風穴をあけ、アジア再侵略をもくろむ日本国家、再びヨーロッパの盟主として君臨せんとするドイツ国家を撃ち、差別排外主義と対決していこうではないか。★

「天皇訪独糾弾！」横断幕を拡げて怒りのシュプレヒコール炸裂！

ギリシャ・アナキスト 高校 大学 連続占拠！

無政府バリストの炎立つ！〈アテネ〉

ギリシャでは２～３月にかけて高校、大学生による大規模なバリケードストライキ闘争が闘い抜かれた。

教育費を一方的に削減せんとする政府に対し、学生の怒りが爆発したのだ。

２月８日、ギリシャ全土 600ヶ所の高校、大学で学生が一斉に学校施設を占拠し、闘いは始まった。翌々日にはアテネのイリオウポリ高校で学内から運び出された机、イスなどで周辺の路上にバリケードが築かれるなどして、運動は拡大していく。

12日にはデモが呼びかけられパトラ、グレベナ、ケルキラなどから学生部隊がアテネに次々と結集し1000人以上にふくれあがった。デモでは「教育財政削減政策粉砕！」「ファシスト、カランボカ糾弾！」の声がとんだ。（90年11月～91年２月にかけて闘い抜かれた全国学校占拠闘争を学生とともに闘った教員、ニコス・テムポネラスを射殺したのがカランボカである）

戦闘的デモ大爆発！

戦闘的アナキスト学生らはアテネの大通りで遊撃戦を展開、反動的テレビ局として悪名高い「テレシティ」の中継車両には火炎攻撃が加えられた。また、おりから試験中であったアテネ工科大学にはアナキスト戦闘部隊が突入、占拠している。この他バスを投石でもって攻撃し、３台が大破。（ギリシャでは公営バスが民営化された際、労働者が大量解雇された経緯から、バスは権力と資本による首切りの象徴となっており、デモ、暴動では必ず攻撃対象となっている。）アナキスト学生部隊は構内から机やロッカーなどを持ち出して街頭にバリケードを構築。機動隊が鎮圧にのりだしたがアナキストはひるむことなく戦闘を継続し、保守系テレビ局「スカイチャンネル」中継車数台が火炎ビン攻撃で次々と炎上していった。「混乱」を恐れた大学当局は機動隊に退去を要請、バリケード戦は勝利した。

不当な事後弾圧

３日後、なおも続く学校占拠に対し「占拠をやめなければ、夏休みはナシだ」などと教育省が発表したがこれは学生のさらなる怒りを買うものでしかなかった。３月９日になって占拠闘争は一定の成果を収めて終了した。この後アテネの高校生６人が「長髪」を理由に退学処分をうけたのを始めとして、各地で強制退学処分者が続出。闘争の中心メンバーばかりに処分が集中していることから「長髪」が弾圧の口実なのは明らかであった。

９日には先のカランボカに終身刑の判決が下されたが、他の共犯者には「禁固３カ月または９万ドラクマ（約６万円）の罰金」が言い渡されたのみであった。

3.8 女性解放闘争 ポルノ映画館を襲撃！

占拠闘争と軸を一つにする形で３月８日「国際婦人デー」がアナキストによって闘い抜かれた。アテネ、シリシオ通りにあるポルノ映画館アンティネアには50人のアナキスト部隊が突入、いあわせた観客約30名を館外に引きずり出し映画館の看板、ポスターをズタズタに引き裂き、黒旗と横断幕を掲げて反ポルノグラフィー、反性差別を訴え、独自に「テレマとルイーズ」を実力上映した。

詩のコーナー

★STATE VIOLENCE STATE CONTROL
　　　　　　　　　　　－DISCHARGE

警棒を携えて　ずらっと立ち並び
銃や警棒をふりかざす

国家支配　国家支配
こいつが国家支配なんだ

閉鎖されたドアの隠で襲われ
あばら骨を砕かれ　打ちのめされた
血まみれの口　脳天をなぐり砕かれ
口の中は血だらけ

No. 5
15.12
1993

WARRIOR★

Newsletter from Revolutionary Anarchists

A.R.P
P.O.BOX 57
Sakyo, Kyoto
606, JAPAN

ANARCHY in JAPAN
1993 Sep~Oct

★ 1. AUG / Tokyo

Rockabilly Rock 'n' Rollers who dance and twist on the street around Yoyogi Park on Sundays, confronted with Iranian workers, and citizen group Inoken who works for human rights. Rock 'n' Rollers have shown up violently chanting "Troublemaking Iranians must go home!".

2 members from Inoken have been brutaly arrested by mobilized riot police who came to "prevent citizens confrontat-ions". Consequently, series of house research were made by police due to that day arrests.

An Iranian who happned to be at Inoken office, was caught and deported as "illegal staying".

★ 6. AUG / Hiroshima

Anarchists, anti-militalists and anti-authoritarian have gathered for "8.6 HIROSHIMA MEETING" which is held every 6th August the day atomic bomb was dropped. The meeting is organized by "anti-war, anti-state meeting executive committ-ee". Also a rally has been made.

★ 10. AUG~ 5. SEP / Tokyo

An exebition in memory of Osugi Sakae 70th year of his death. He was one of the most famous anarchist in Japan, and was murdered by military police, 1923. Many photos, materials and drawings were displayed at the hall. The total number of atten-dance counted 2000 showed he still highly fascinates many people.

★ 9. SEP / Tokyo

A meeting demanding release for Katuhisa Omori was organized by Omori Defense Group. Omori was fabricately arrested and is accused of bomb attack against Hokkaido Pref hall, 1976. He has been taken in custody for about 15 years. He was sentenced to death in the first and second trial. The judge has notified the limit of oral proceedings for the last instance which should be made up to 6, June '94. Omori Defense Group calls for a petition. Actions will be organ-ised next June against the Supreme Court.

★ 23. SEP / Tokyo

Riot cops was mobilized to arrest "illegal staying" foreig-ners, mainly Iranians. 22 were arrested being accused of "pos-session of fake made telephone cards and dealing drugs".

65 were caught as "over-staying", and deported immediately.

(photos; see page 1, 2, 3)

SMASH RASIST SCUM!!
FIGHT THE POWER!!
★ANARCHY GOES ON!! ★

— ATTENTION !! —
ANARCHY IN JAPAN VIDEO AND ANARCHIST CALENDER '94 WILL COME SOON!!!